

# 自衛隊神奈川地方協力本部

## クラーク記念国際高校で授業講話を実施し自衛隊をPR



広報官の説明をタブレットやスマホでノートを取ながら聞く生徒たち

神奈川地方協力本部横浜中央募集案内所（所長 日比野准陸尉）は、9月20日（水）、10月30日（月）、11月10日（金）の3日間、クラーク記念国際高校（横浜市西区）において、2年生の約120名に対し、授業講話を実施し、自衛隊をPRした。

授業講話では、自衛隊の任務や近年の災害派遣活動や国際貢献の状況、入隊から退職、再就職などの自衛官の生涯についてスライドや動画を用いて分かりやすく説明を行った。生徒は「自衛隊には、いろいろな仕事や入隊コースがあることを初めて知りました」と話した。

また、生徒からのなぜ自衛隊に入ったのですかとの質問に陸海空の各広報官は、それぞれ入隊した理由や経緯を話し、生徒は「自衛隊に入るには、ものすごく高い志が必要だと思っていたけれど、船に乗って海外に行きたいなど、意外とシンプルな理由で驚いた。自分も入れるかなと思った」と感想を述べていた。

横浜中央募集案内所は「今後も積極的に学校と協力し、生徒たちの自衛隊への関心の喚起に努め、募集成果に繋げていきたい」としている。

## 「第40回かわさき市民祭り」で自衛隊車両を展示し自衛隊をPR



展示車両を見学する来場者

神奈川地方協力本部川崎出張所（所長 白岩1陸尉）は、11月5日（日）、富士見公園（川崎市川崎区）一帯で開催された「第40回かわさき市民祭り」において、武山駐屯地に所在する第31普通科連隊の支援を受け、会場の一つである富士見球場（旧川崎球場）に自衛隊車両を展示し、自衛隊をPRした。

当祭りは、全国各地の名産品ブースや市民の来店、ステージショーなどが行われ、市内外から例年約55万人が訪れる。

球場内では、軽装甲機動車、高機動車、偵察用オートバイを展示すると共に、広報官による車両説明を実施し、多くの来場者の注目を集めた。

若者たちは、スマートフォンでひとしきり高機動車を撮影すると、今度は車内の計器類に注目。直下を照らすランプのスイッチがあることを知り、再び車外に出て確認するなど興味津々の様子だった。

また、迷彩服を試着し、運転席に乗り込んでの記念撮影には、多くの親子連れが列をなし、自衛隊家族会会員や募集相談員たちは、慣れた様子で子供たちの笑顔を引き出すなど、撮影を手伝っていた。

川崎出張所は「今後も部隊や家族会、募集相談員と連携し、広報活動に励み、自衛隊への関心の喚起と理解促進に努めていきたい」としている。

## 砕氷艦「しらせ」東京湾体験航海を支援



砕氷艦「しらせ」を前に「想像以上の大きさ」と話す生徒（横須賀地方総監部）

神奈川地方協力本部厚木募集案内所（所長 岡山1海尉）は、10月21日（土）、募集対象者4名に対して、海自横須賀地方総監部において実施された砕氷艦「しらせ」の体験航海を支援した。当日は、台風のため実施が危ぶまれたものの、天候はなんと持ちこたえ、小雨の降る中で航海となった。

乗艦前に参加者は、横須賀基地に停泊する多くの護衛艦に目を奪われ、又「いずも」の巨大な姿に圧倒されている様子だった。

参加者を乗せた「しらせ」は浦賀水道を航行し、晴海ふ頭に向けて北上。航行中の艦内では、装備品や艦載ヘリコプターを見学し、乗組員によるラップ吹奏や手旗信号も披露された。理髪設備を見学した参加者は「長い航海をする南極観測には欠かせない施設だけど、隊員がお互いに髪を切るのですか」などと質問し、興味津々の様子だった。

横浜みなとみらい地区の高層ビルや東京湾アクアライン、お台場などを眺め、最後にレインボーブリッジの下を通過すると、いつもとは違う角度から見る景色に艦上では歓声が上ががり、ほどなくして晴海ふ頭に入港した。

医官として「しらせ」での勤務を希望する参加者は「あっという間の3時間でしたが、ゆっくりと見学することができました。この船で勤務できるように頑張ります」と話した。

厚木募集案内所は「今後も様々な機会を通じて、自衛隊の活動や魅力を積極的にPRし、1人でも多くの若者に志願をしてもらえるよう募集活動に励んでいきたい」としている。